

青少年育成ひろしま情報誌

はぐくむ

はぐくむ。子どもも、私も。



特 集

対談「少年の主張」から見える“こころ”

「言葉を育てる」「感動する」が一つの出発

- ケータイに潜む「影」とそこに見出すべき『光』

広島市電子メディア協議会 尾崎公幸会長

- 特別寄稿 黒柳徹子さんから届いた子どもたちへのメッセージ

～ふしぎなたまご～

2010.3
共感号
vol.3

「夢配達人プロジェクト」で大凧を揚げる三ツ城小学校の児童



社団法人 青少年育成広島県民会議

はぐくむ

Contents

2010.3
共感号
vol.3

- 02 特集／対談「少年の主張」から見える“こころ”
「言葉を育てる」「感動する」が一つの出発点
上田宗間会長・山本名嘉子先生
- 08 県民運動「あいさつ・声かけ運動」
「あいさつ」「声かけ」はじめませんか?
- 09 明るい家庭の日運動
平成21年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品
- 12 環境浄化活動
ケータイに潜む「影」とそこに見出すべき「光」
広島市電子メディア協議会 尾崎公幸会長
- 14 夢配達人プロジェクト
～子どもたちの夢を地域のみんなで実現させました!～
- 15 特別寄稿
黒柳徹子さんから届いた
子どもたちへのメッセージ～ふしぎなたまご～
- 16 いきいき地域活動紹介
青少年育成尾道市民会議・青少年育成安芸高田市民会議
- 18 知のコーナー 県立広島大学教員の報告
青少年の子ども観と育児観 猪木省三さん
若者言葉 友定賢治さん
青少年の身体運動文化を考える 中瀬古哲さん
- 30 沖田孝司さんのエッセイ 10代のための音楽講座
「いつも心にほほえみを!どこでもハートに音楽を!」
- 32 「ちょいサポ」報告
県立広島大学広島キャンパス 航海体験セミナーから
県立広島大学三原キャンパス 尾道市医師会の市民公開講座から



大竹市青少年育成市民会議
「手作りたこあげ大会」

平成22年2月7日(日)午前11時から正午まで、大竹市晴海臨海公園(大竹市晴海)で行いました。2歳から小学5年生までの58人が、「アイディア・デザインの部」と「飛行性能の部」で自慢のたこを競い合いました。



地域で子どもたちが
感動、共感を覚える場づくりを!

はぐくむ vol.3 2010年3月20日発行

発行人／社団法人 青少年育成広島県民会議
企画・編集／社団法人 青少年育成広島県民会議
〒730-8511 広島市中区基町10-52 広島県県民活動課内
TEL:082-513-2742 FAX:082-511-2173
URL: <http://www.hiro-payd.or.jp>
編集協力／東広島リビング新聞社



「言葉を育てる」「感動する」が一つの出発点

(社)青少年育成広島県民会議は毎年、県内の中学生を対象にした「少年の主張」を行っています。昨年の『はぐくむ』では、上田宗間会長(茶道上田宗箇流家元)と上位入賞した3人の中学生との本音トークを紹介しました。今回は、その「少年の主張」の審査委員長を務めていたいた山本名嘉子先生(東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所代表)と上田会長に、「中学生」をキーワードに話し合っていただきました。

子どもは本当に変わったのでしょうか

事務局 お一人が育つてこられたころの中学生を思ひ起ししながら、その時代とは比べるものにならないほどもう少しろくな意味で豊かな時代に生きる中学生を見られ、どんなふうに感じてこらひのしゃるのでしょうか。「少年の主張」以外に「家庭の田」の作文からも、自分の親をすごく大切に思ひ、きょうだい、おじいちゃん、おばあちゃん、家族を大切にする思ひが文章か

の伝わるところですが…。

上田 わよつと前まではわいじやなかつたよね。毎年「ねじさつ運動」を広島駅前でやっています。「ねじさつ運動」と声を掛けます。5~6年ぐらひ前は、大人は返事が返つてこないで、「ねじさつ運動」を広島駅前でやります。でも、近年は子どもから返事が返つてくる、大人も返つてくるのです。厳しい社会情勢と反比例。社会情勢が本当に厳しく身に染みたときに、みんなちよとと考えを原点に戻しつつあるのかななどうのんな感じです。

山本 やつかも分かりませんね。



対談は、江戸時代に広島城内にあった広島藩国老上田家上屋敷を当時のイメージに近い形で再現された茶道上田宗箇(そうご)流の上田流和風堂(広島市西区)で昨年11月に行われました

上田 みんな、それを何となく分かつてじゆんですかねえ。

山本 だからでしようか、小学校はもちろん、多くの中学校でもうさつに取り組んでいます。学校が、学力も、それからいろんな意味で教育の成果を上げてきたとき、あさつが良くなるんですね。

上田 ああ、そういう成果が出てくるときにはねえ…。

山本 はつ、それは比例してます。そんな学校は、お訪ねしても雰囲気がとても良じでやあ。

「いじる」を育てる

上田 世の中じつののは、おやじゆうぢゅうねえ。恵みやくへんと身近なものを忘れてしまじ、いじつ状況になつたときに、再度、田の前に大切なものが見えてくる…。

山本 やせり、いじる、を求めてじゆんと思ひます。いじの触れ合ひ、じじうような感じです。一方では学力ですけどね。小学校は全国4位とかうたはすが、中学校は少し低くて、今年度から中学校の学力向上に取り組んでいて、私もかかわらずつと見ていまますが、実は学力や授業をどうあるかどうの前に、生徒のいじの、とか生活とか、うつづいたものをきちんとしないじけないと痛感してます。やうには、あじわい運動も大事だとか、そつうひとも言ひていますけれどね。

上田 じんぐだ、一人親家庭が増えているよね。それがすると、遅くまで働いて帰るよつたとき、子どもと家庭でのかか

れど耳うに思ひやりがありました。今は非常に豊かですが、内面の悩みとか生活の辛さじうつなことが分かりにくく、余計寂しいと思ひます。

上田 戦後の大変な時代を思ひつと、今は裕福ですね。僕は早くに父親をして、小学1年生から高校卒業まではぼつと銭湯に行つてきました。台所も隣の家と共同で使つたりね。みんながそつじうのをばく当たり前のようにな生活した結果、自立心ができたのでじゆつね。

山本 思ひやりの気持ちじうのが育つのでじゆつね。

上田 相手も大変なのが分かかるんですね。でも、あじふん難じうじうじうね。

上田 じゆうのが昔以上に難じうのでは?

山本 それば、じのケニアやれるのじゆうじうか?

山本 個々の家庭で違つてふねじゆうじうか、子どもは寂しい生活をしてると思ひます。食事もインスタントものを一人で食べるとか、そつじう形の子が多くあります。かつて私も鍵つ子だったのですが、近所の人気が助けてくれました。帰つたら隣の家に行き、時には夕食を頂くじうことがありました。今せうじうのは無じですね。

上田 前回、中学生3人と座談した時、1人はお父さんのががをされて車いすの生活だと教えてわらひました。そういう子ほじ自立心が出るんじやないかと私は思ひます。お母さんを大事にとか、両親を大事にしなきやとか思ひはずですかね。親がしっかりと前向きに生きているじ、子どもも、お母さん、お父さんのこと

を思ひし、自立心ができますよ。

山本 私たちの子ども時代は、貧しいけ

あちゃんとのかかわりとかじうのものが増えてきたなどうのはすゞく思ひてます。

上田 それまだほひでしたか?

山本 少なかつたですね。何が原因かはなかなか分かりませんが、例えば、経済などが上昇志向の時には周りを見なかつた、じうじうとかむ…。本当の幸せみたがなものが周りにあり、一番大事にしたいのは家族なんだとじう、やうじう想(ねむ)いが少しずつ出てきたんじやなしじうか。もつ右肩上がりじうのはあまり望めないようですが

上田 前回の『はぐくむ』の座談会で登場した子どもたちはじうかりしてますね。ただ、「少年の主張」そのものは、自分の意見を伝えるだけで一方的ですね。

上田 主張をするときじね。

山本 はつ。わからん聞き手がいて、そこに「ミニコ」ケーションを交じり合わせるのですけれど、今求められてる力じうの

のは対話とか、みんなで話しかねじうの上じうじうじうの力ですかね。

あちゃんとのかかわりとかじうのものが増えてきたなどうのはすゞく思ひてます。

上田 それまだほひでしたか?

山本 少なかつたですね。何が原因かはなかなか分かりませんが、例えば、経済などが上昇志向の時には周りを見なかつた、じうじうとかむ…。本当の幸せみたがなものが周りにあり、一番大事にしたいのは家族なんだとじう、やうじう想(ねむ)いが少しずつ出てきたんじやなしじうか。もつ右肩上がりじうのはあまり望めないようですが

上田 前回の『はぐくむ』の座談会で登場した子どもたちはじうかりしてますね。ただ、「少年の主張」そのものは、自分の意見を伝えるだけで一方的ですね。

上田 主張をするときじね。

山本 はつ。わからん聞き手がいて、そこに「ミニコ」ケーションを交じり合わせるのですけれど、今求められてる力じうの

のは対話とか、みんなで話しかねじうの上じうじうじうの力ですかね。



上田 宗間会長

(社)青少年育成広島県民会議会長、茶道上田宗箇流家元。豊臣秀吉に仕えた武将で武家茶道を創設した上田宗箇の茶の精神を受け継ぎ、武家の茶の湯文化を総合的に伝えている



山本 名嘉子先生

東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所代表。元安田女子大学教授。長年にわたって国語教育に携わり、日本国語教育学会理事を務めている。著書に『確かな国語力を育てる国語科授業の探究』など



山本 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

上田 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

山本 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

上田 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

山本 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

上田 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

山本 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

上田 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。



**すべての行動が
起こるときに
感動が根っこにある
と思うんです。
(山本)**

「心から感動した」— その心は 態度と言葉でしか 表せません。 (上田)



山本 課題はこのままであります。周りがどれだけ支えられるかでしょ。少年の主張」に出てきらる子供もたねは、やつぱり家庭をきちんとしなうとして仕事はできませんし、そのかるとどうりやつて学校に居る時間を凝縮して使い分けていくかが大事になります。それには知恵を包含できるほどの余力がありますよね。

上田 大変でしょうねえ。30代、40代の親御さんたちは、そこまでうまく全部

でできます。研究会もたくさんあります。先生の帰宅は男女とも遅いですね。でも、家庭はどうなつてゐるの? って聞くんですね。年生の大事な時に身に付けていくかといふことじやなうでしょ?

山本 やつぱり大変な努力のいることですね。周りが粘り強くお手本を示してくると、それが自分の意志ができることがあります。周りが粘り強くお手本を示してくると、それが自分の意志ができることがあります。

大事な核は“誇り”です

上田 中学生の周囲の大人、地域、学校に今一番望むことは、大人自身がキヤバシティーを広げることですね。

山本 それは、余裕を持つんですね。

上田 今、大人があまりに忙しく生き過ぎてますよね。

山本 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

上田 「心から感動した」とか「心から感動した」とか、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。



**すべての行動が
起こるときに
感動が根っこにある
と思うんです。
(山本)**

ん。自分の「心」の有り様“が定まる”なくて20代・30代・40代と自分の想いと違う人生を歩む入って結構います。大事などに指摘できるかどうかがすく大きいですよ。

山本 それが基本ですね。本当に親が自分のほうに向かって語つてくれてるので、何か、子供には伝わるんですね。

上田 だから親がちゃんと向かって語るね、ほゞ、親がちよつとも病気したりすばりなつたりしまわよ。

山本 私は専門が国語ですか、「言葉の問題ばかりを考えています。小・中学校で国語を大事にすることは人間がくるためです。それを根底にしながら、おしゃべりの上手な子をつくりたいと思います。一番の問題は、おしゃかしたら大人が子どもたちに向かっていなうことかもしれません。

山本 いかに物事をよく見て、感じる生き活を送るか、自分の偽りのない言葉をどうだけかに出ていくかとどうか、それが、時間がかかりますよ。

で一番良いと思ひるのは、過去の名文を子どもに覚えさせないと、「名文」というのは磨かれていて、すくなく内容が豊かで文章もきれいだから、それをしっかりと読んでいるところ自分の言葉として文章が書けてくる」と。だから「名文集を授業でやるのが一番意味がある」と言われ、「今まで何でもじりから自由」といつの器用にやる人は絶対に採用しないぞうです。なぜか。器用な人はすぐできるから深くならない。不器用な人は、自分が不器用だと思つて、繰り返し苦労して努力するから、才能は開かれれる。自分の独創性があるとおっしゃつてこま。

山本 それが悲観して「コンフレッシュを持ったうやうと、そのうの子は励ましてやる」と思つてますね。

山本 そのうの子は、本當に話したて持ちが消えますね。

山本 「わよと待つ」とか「後で聞く」とか…。おっしゃつて、本當に話したて持ちが消えますね。



山本 一方で、地域には子どもたちを巻き込んだ活動していくことがあります。「少年の主張」の発表で美土里町の神楽の話があり、その女の子が「将来田分はいの神楽にかかるべきだった」といふたまう。だからこの美土里といつも立派なものだそうです。先日、地域の3校が集まつて神楽大会を開き、盛り上がつたと聞きました。子どもたちだけでできないのだ、やつぱり大人が支えてくる世界です。その中で基礎を学び、一般的な立派な神楽団の人があるのですが、一緒にやつて変えてしまふ、やつぱりいじが今はとても大事なよつとん気がします。

上田 その子は地域や神楽に誇りを持っていますね。私は戦後の広島で、文化的なことがとても厳しい状況の中で自分なりに努力をして皆さんに支持してただくことになりましたが、やつてみて一番大事な核はやっぱり「誇り」。私は「上田宗箇流」ところ、必ず伝えていくべき意味がある誇りみたいなものがあります。上昇志向はもわかる必要がありますが、偉くなつたじとか、金持かになつたじとか、そのじのじとよりも自分にはこれが大事だとこのよつとん誇りをそれぞれが持てばらじであります。山本先生があつしゃるようなことを、それぞれの子どもに先生方が伝えることができれば自信にもなるじめうね。親自身やね。

おやじく戦前の日本の家庭では、みんな何か持つていたはあですか。

山本 ええ、わが家の誇りであります。学校で言えば、例

事務局 「大人が変われば子どもが変わる」という取り組みを全国的に始めて10年が経ちます。大人がやつてじることを子どもは自然に吸収しますので、やはり大人の姿勢、暮らし方も見逃せません。子どもの本質は変わつてなくて、健気(けなげ)に生きていると感じているのですが…。

上田 核家族が一般的になり、「キツる」といつて驚くような犯罪が起きてきました。ある講演で「過去に例がないくらい無言社会で、我が子と2人だけ、3人だけであつさしくても相手が分かる、済むようになつてじる」と聞きました。あいさつをしないと家の中でも意思疎通ができません。顔を見たら分かるだからあいさつを省いてしまう。「サイレント社会だ」と過去に例がないくらいべタベタした社会だ」「そのぐらしあい反応ができるからキツてしまう。言葉が使えないから」というような話でした。時代がまた動き始めた今、何ができるのかは、それが家庭で親が社会との接点をどうつくるかが地域と家庭でしつ。そのキーワードは、おそらくかじつといふ。そのことを親が真正面から見なければいけない時代になっていますよ。

山本 地域の助け合つてよつとんなものが、今必要とされなくなつたように思つてですね。例えば冠婚葬祭、特に弔ひのまつ。この間も伝えてまわりました、「お弔ひは全部やるから、手伝ひはやつぱりだす」とおつしやいます。

上田 昔は地域縦出でつたよね。

山本 そうですね。やつぱりじつはまた新しい

つながりなどが生まれていくんですが、一番人間が困るだらうときも、そんなんながらが切れているじつことです。ですから、それ以外のじのじでは、ますますしなくなる。社会や地域と自分がどうかかわつているか、隣の人とどうじつかわりを持っているかといふじを見直すのは大事なじと、それをどうやって再生するかも課題ですね。

別の面で、子どもに大人がどうかかわるかについて意見を申し上げてみたうと思つます。やはり、究極のじのじは言葉だと思つてます。特に今は昔と違い情報が豊かで、じぶんなどが有り余るほど知られ、本物の素晴らしい風景を見に行つても「テレビで見たまゝがきれいだつたじうよつとんじが起つてしまわね。それつてとても困つたじです。すべての行動が起つるとき、感動が根っこにある思ひです。「ああ、いいな」とか「素晴らしい」と思ひながら、何か動きが起つります。学びたじとか…。

上田 感動つて大事なじですからねえ。

山本 それを、知つてじるから「分かつてるから」「アウトライアで名作を知つたから本物は読まない」とか、複製で満足するとか、バーチャルな世界になじんでしまつてのことの問題が一つあります。

上田 ああ、携帯なんかまさにじつですよね。

山本 その仲立ちができるのが我々大人なんですね。素晴らしい風景や芸術作品を見せ、「いいじょー」といふのでも、実は子どもたちにいぢょーではない。だからこそじに仲介する大人が

いけない。感動を言葉に表して自分のわのにしていく、そういう体験を積み重ねていくけるよつとんじのじとあまり変わっていないは「分かつた」「分かること」のほうを優先します。じいものを見せただけではなく仲介する人がいる、それが大人の役割、家庭だったら両親。素晴らしい風景を見たとき、「きれいよね」だけで終わつてしまつてならないじつようか。中国新聞に大牟田さんじつの繪説主幹の方がいらっしゃいました。ヒトラヤに登つて高山植物を見て、きれいな花だったので、ガイドの少女に「これは何といつ花か」と聞いたそで女に「これは何といつ花か」と聞いたそです。そのしたら、その子が「花の名前はいじやないか。きれいなのはきれいなんだ」「すぐ名前を聞きたがる日本人は」と叱(しか)られたそうじす。知的なほうに走つてしまい、それを知つてじることが大事で、「素晴らしい」ととも困つたじです。すべての行動が起つるとき、感動が根っこにある思ひです。それは言葉を媒介にしていけばじつと思ひます。その素晴らしいことをどう表現するか。「よかつたよー」とか「きれいだつたー」だけではない表現です。

上田 それの積み重ねがその人をつくつてきますよね。創造性も出てきますしね。

山本 ほんとう、そう思いますね。地味ですが、みんなそこを大事にして「けば…」。

上田 感動の経験が多い人ほど、やつぱり魅力的です。感動の数が創造性を豊かにしていくじのじはありますよね。

山本 素晴らしき風景や芸術作品を見せ、「いいじょー」といふのでも、実は子どもたちには伝わつてない。だからこそじに仲介する大人が

山本 一方で、地域には子どもたちを巻き込んだ活動していくことがあります。「少年の主張」の発表で美土里町の神楽の話があり、その女の子が「将来田分はいの神楽にかかるべきだった」といふたまう。だからこの美土里といつも立派なものだそうです。先日、地域の3校が集まつて神楽大会を開き、盛り上がつたと聞きました。子どもたちだけではできないのだ、やつぱり大人が支えてくる世界です。その中で基礎を学び、一般的な立派な神楽団の人があるのですが、一緒にやつて変えてしまふ、やつぱりいじが今はとても大事なよつとん気がします。

上田 その子は地域や神楽に誇りを持つていますね。私は戦後の広島で、文化的なことがとても厳しい状況の中で自分なりに努力をして皆さんに支持してただくことになりましたが、やつてみて一番大事な核はやっぱり「誇り」。私は「上田宗箇流」ところ、必ず伝えていくべき意味がある誇りみたいなものがあります。上昇志向はもわかる必要がありますが、偉くなつたじとか、金持かになつたじとか、そのじのじとよりも自分にはこれが大事だとこのよつとん誇りをそれぞれが持てばらじであります。山本先生があつしゃるようなことを、それぞれの子どもに先生方が伝えることができれば自信にもなるじめうね。親自身やね。

おやじく戦前の日本の家庭では、みんな何か持つていたはあですか。

山本 ええ、わが家の誇りであります。学校で言えば、例



留学生の子どもなど外国籍の子もたくさんいますね。いろんな子が一緒になってやるのですが、非常に見事な出来でした。見た後で、「つべつ上げるのに大変だったんじやなじか」と言つたのですが、地域の方が実際に舞台の中に誇りで入つておられ、一緒に指導していく上田さんもさうしたとか。先生方も大変だったようですが、子どもたちはみんなキイキして、足先、つま先までピッと伸びて素晴らしいでした。先生も喜び、子どもたちも喜んでくれました。

上田 お前前でも、いじつて手を置いて休めて、この手のじのじが入りついで、ただ休んでじるかでは皮膚が違うんですよ。だからすぐ分かります。普段の生活で、や、そ、までスースと氣が入つてじゅうとは大変なじですけどね。皮膚の張りまで氣によつて変わるんです。すばらしいじやね。

山本 「響」は本当に感心しました。だから一つの物差しで、国語の勉強がよくできるとか、算数ができるとかだけを見ますと、とてもそういう気持ちにはなれません。まあ、それはそれで褒めて、子どもがその道へじょうのむあるからじんと返つてくるのが急に増え、やつぱり原点に持つてじるものが出来始めたのかもしれないと思つます。内面的にちゃんととしたものを持つてじる。誇り高き国民の核たるもののが、どうじてきたのかもしれない。いつも気持かにほなれません。まあ、それはそれで褒めて、子どもがその道へじょうのむあるからじんと返つてくるのが急に増え、やつぱり原点に持つてじるものが出来始めたのかもしれないと思つます。内面的にちゃんととしたものを持つてじる。誇り高き国民の核たるもののが、どうじてきたのかもしれない。いつも気持かにほなれません。逆に今からの時代は可能性があるかもしれなじ。今日、話をしながら「ああ、やつぱりそなかもしれんなあ」と思つます。

山本 日本人の良さですね。

上田 もともと持つてじる資質やレベルの高さみたじなものが、再び出だしたのかもしれませんね。

山本 今のおじいちゃん、おばあちゃんのところでは、やつぱりものを大事にしてじつじつと見つけていた。それで、阪神淡路大震災のじかへじ言つたのですが、地域の方が實際の舞台の中に誇りで入つておられ、一緒に指導していく上田さんもさうしたとか。先生方も大変だったようですが、子どもたちはみんなキイキして、足先、つま先までピッと伸びて素晴らしいでした。先生も喜び、子どもたちも喜んでくれました。

上田 お前前でも、いじつて手を置いて休めて、この手のじのじが入りついで、ただ休んでじるかでは皮膚が違うんですよ。だからすぐ分かります。普段の生活で、や、そ、までスースと氣が入つてじゅうとは大変なじですけどね。皮膚の張りまで氣によつて変わるんです。すばらしいじやね。

上田 頭の話で出た、子どもたちは両親のじのじを思つてじてその心情は私たちの子どもたちのとあまり変わっていないんですけど、非常に見事な出来でした。見た後で、「つべつ上げるのに大変だったんじやなじか」と言つたのですが、地域の方が実際に舞台の中に誇りで入つておられ、一緒に指導していく上田さんもさうしたとか。先生方も大変だったようですが、子どもたちはみんなキイキして、足先、つま先までピッと伸びて素晴らしいでした。先生も喜び、子どもたちも喜んでくれました。

上田 お前前でも、いじつて手を置いて休めて、この手のじのじが入りついで、ただ休んでじるかでは皮膚が違うんですよ。だからすぐ分かります。普段の生活で、や、そ、までスースと氣が入つてじゅうとは大変なじですけどね。皮膚の張りまで氣によつて変わるんです。すばらしいじやね。

上田 「響」は本当に感心しました。だから一つの物差しで、国語の勉強がよくできるとか、算数ができるとかだけを見ますと、とてもそういう気持ちにはなれません。まあ、それはそれで褒めて、子どもがその道へじょうのむあるからじんと返つてくるのが急に増え、やつぱり原点に持つてじるものが出来始めたのかもしれないと思つます。内面的にちゃんととしたものを持つてじる。誇り高き国民の核たるもののが、どうじてきたのかもしれない。いつも気持かにほなれません。逆に今からの時代は可能性があるかもしれなじ。今日、話をしながら「ああ、やつぱりそなかもしれんなあ」と思つます。

山本 日本人の良さですね。

上田 お前前でも、いじつて手を置いて休めて、この手のじのじが入りついで、ただ休んでじるかでは皮膚が違うんですよ。だからすぐ分かります。普段の生活で、や、そ、までスースと氣が入つてじゅうとは大変なじですけどね。皮膚の張りまで氣によつて変わるんです。すばらしいじやね。

上田 もともと持つてじる資質やレベルの高さみたじなものが、再び出だしたのかもしれませんね。

山本 今のおじいちゃん、おばあちゃんのところでは、やつぱりものを大事にしてじつじつと見つけていた。それで、阪神淡路大震災のじかへじ言つたのですが、地域の方が実際に舞台の中に誇りで入つておられ、一緒に指導していく上田さんもさうしたとか。先生方も大変だったようですが、子どもたちはみんなキイキして、足先、つま先までピッと伸びて素晴らしいでした。先生も喜び、子どもたちも喜んでくれました。

上田 お前前でも、いじつて手を置いて休めて、この手のじのじが入りついで、ただ休んでじるかでは皮膚が違うんですよ。だからすぐ分かります。普段の生活で、や、そ、までスースと氣が入つてじゅうとは大変なじですけどね。皮膚の張りまで氣によつて変わるんです。すばらしいじやね。

上田 「響」は本当に感心しました。だから一つの物差しで、国語の勉強がよくできるとか、算数ができるとかだけを見ますと、とてもそういう気持ちにはなれません。まあ、それはそれで褒めて、子どもがその道へじょうのむあるからじんと返つてくるのが急に増え、やつぱり原点に持つてじるものが出来始めたのかもしれないと思つます。内面的にちゃんととしたものを持つてじる。誇り高き国民の核たるもののが、どうじてきたのかもしれない。いつも気持かにほなれません。逆に今からの時代は可能性があるかもしれなじ。今日、話をしながら「ああ、やつぱりそなかもしれんなあ」と思つます。

山本 日本人の良さですね。



明るい家庭の日運動

平成21年度「家庭の日」に関する
作文・図画等入賞作品



お父さんは、仕事とが、休みの時は、よ
と、じょんぱりします。
「せんあのう。」
「やーれ足がいた。」
「せんあのう。」
と、いつも言つてたるから、わたしがとても
もじょんぱりなのに、おばあちゃんは、わ
たしの気もちも知らなじで、夕ごはんの時
は、いつも明日の天気を気にして、晴れと
出でと、でもはつきり雨と出でと、
「せんがなじのう。」

★この事業実施にあたり、協賛いただいた企業・団体です。

(敬称略、順不同)
全日空、日本航空、広島ロータリークラブ、
広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、
広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、
広島中央ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、
広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、
広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ

県民運動

毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、
家族みんなの心が通い合う明るい家
庭づくりに取り組んでいます。

特選

大じな仕ごと

大崎上島町立木江小学校 3年

水下 恋瑚さん

わたしの家には、広い畑があります。おじ
いちゃんが、何十年もかかつて作った畑です。
その畑には、みかん、ブリーフ、キウイ、か
き、もぐなんなどたくさんの物を作つて
じて、おじいちゃんの田まんの畑です。
おじいちゃんは、わたしが3才の時に
はたらきすきで、心ぞうがわるくなり、
なくなりてしまいました。今は、おばあち
ゃんがおじいちゃんの、気もちになつて、
がんばっています。
おばあちゃんは、ひざがわるくなつていて
「やーれ足がいた。」
「せんあのう。」
と、いつも言つてたるから、わたしがとても
もじょんぱりなのに、おばあちゃんは、わ
たしの気もちも知らなじで、夕ごはんの時
は、いつも明日の天気を気にして、晴れと
出でと、でもはつきり雨と出でと、
「せんがなじのう。」

お父さんは、仕事とが、休みの時は、よ
と、じょんぱりします。

「せんあのう。」

と、いつも言つてたるから、わたしがとても
もじょんぱりなのに、おばあちゃんは、わ
たしの気もちも知らなじで、夕ごはんの時
は、いつも明日の天気を気にして、晴れと
出でと、でもはつきり雨と出でと、
「せんがなじのう。」

お父さんは、仕事とが、休みの時は、よ
と、じょんぱりします。

入選

和井 拳士朗さん



お父さんと、庭で野菜を育てています。

特選

藤原 大樹さん



みんなで ごはんを食べているところです。

県民運動 あいさつ声かけ運動



09年11月6日、JR尾道駅前にて



登校中の学生にあいさつ・声かけ

「あいさつ」「声かけ」の効果

県内各地で「あいさつ・声かけ運動」
の取り組みが行われています。
運動の効果について、参加者からは
次のような感想が寄せられています。

「地域の子どもの様子がよくわかるよう
になった」
「子どもと顔なじみになると、子ども
たちとの信頼関係ができた」
「子どもへの声かけを通して、大人同士
のあいさつの輪が広がっている」
「近所付き合いが頻繁になった」
「地域の子は地域で守るといふ機運
の醸成につながっている」
「あいさつ」「声かけ」、みなさんの
地域でもはじめてみませんか?

「あいさつ」「声かけ」は 「ミニユーモーション」の 第一歩

まずは大人の
わたしから「声かけ」。
気にかけてくれていると
伝わることが
大切なのです。

声かけが、
青少年の非行防止
健全育成に
つながります。

ちととしたあいさつ、
声かけが、
青少年の非行防止
健全育成に
つながります。

「おはよう」
「行ってらっしゃい」
「気をつけてね」
「お帰りなさい」

広島県の少年のマスコット
ゆっぴー

●11月は全国青少年健全育成強調月間です●

広島県・広島県教育委員会・広島県警察本部・(社)青少年育成広島県民会議
市町・市町教育委員会・各青少年育成市町民会議及び青少年育成関係団体

青少年健全育成強調月間ポスター

「あいさつ」「声かけ」はじめませんか?

ケータイに潜む「影」とそこに見出すべき「光」

広島市電子メディア協議会

尾崎 公幸 会長



携帯電話は「電話」ではない

携帯電話は我々の生活様式を大きく変えた。アナログ世代の大人にとって、携帯電話は「会話」と「メール」でいつも簡単に相手と連絡がとれる便利な道具で、さらに場所確認ができる「GPS機能」搭載とくれば「これを子供に持たせておけば安心」と、子供に買いたえるのは当然かもしれない。

ところが、携帯電話は“ケータイ”であって電話ではない。ケータイは、手帳になり、目覚まし時計になり、計算もできる。テレビが見られて、音楽も聴ける。写真や動画が映せて、それを誰かに送ることができる。インターネットを利用すれば、無限ともいえるあらゆるサイトを見ることができる。

インターネットは、有益な情報を得ることができる半面、子供たちに見せたくない有害情報をも提供してしまう。自殺指南、出会い系、ポルノ、麻薬・ドラッグなど様々で、ケータイであれば親指ひとつで簡単にアクセスできる。そこには、売春、恐喝、詐欺、悪徳商法などが存在し、無防備な子供たちが引っ掛けられ、犯罪被害に及ぶケースは後を絶たない。

さらには、チェーンメールや裏サイト、掲示板への書き込みなどによる悪質かつ陰湿ないじめなど、子供たち自身が加害者となる場合が多く、自殺にまで至る悲しい事件も幾度となくあった。

ケータイは使い方を間違えると人を殺害する道具に変貌(へんぼう)する。考えてみれば、生活必需品の包丁も使い方を間違えれば凶器に変わる。だから子供を持たせる時は、親や周りの人がそばでジッと見つめている。では、ケータイはどうだろうか。子供に買いたえたケータイの使い方を、ジッとそばで見つめている親はない。

子供たちの使うケータイの実態～プロフ～

子供たちにとってのケータイは、親の監視が届かない格好のオモチャとなった。しかも最新式のデジタル機能付きである。サイト業者は子供たちが飛びつきそうなサイトを止めどなく創(つく)っている。その最たるもののがプロフィールサイト、通称「プロフ」である。

自分のホームページを作り自己紹介するサイトなのだが、顔写真を含め、個人情報を全世界に公開している。さらにこのプロフのランキングサイトも存在している。見る頻度の高い媒体にはスポンサーが付くのは世の流れで、個人のホームページにもあらゆる別サイトの広告が貼り付けられている。

仮にAさんのホームページにZ業者の広告が掲載されているとしよう。Aさんのページを見ているとZ業者の刺激的な広告が目に付き、開く。するとAさんに収入が入る。また、Z業者の売上につながるとその一部がAさんに入る仕組みになっている。つまり、プロフで小遣い稼ぎができるわけ。子供たちは

ランクを上げようと、わざと刺激的な写真・内容を自分のホームページに掲載し、有害サイトと連携してしまい、ついには子供たち自らが犯罪に手を染めてしまう可能性もある。悪意を持つた大人たちによって純真無垢な子供たちは踊らされ、被害を被っている。

度重なる事件を憂慮し、国は未成年者が使用する携帯電話には、有害情報をブロックするフィルタリング装着の強化を始めた。このフィルタリングによって、薬物やポルノ、出会い系、暴力、酒、タバコなどのキーワードでサイトは開けなくなる。しかし、それでも犯罪被害は減らない。なぜか。フィルタリングを通り抜けるサイトに問題がある。テレビ等で盛んにコマーシャルしているゲームサイトやコミュニティーサイトは、このフィルタリングを通り抜けていている。

子供たちの使うケータイの実態～ゲームサイト～

ゲームサイトは会員登録制で、名前(ハンドルネーム)や地域、趣味、誕生日などを記入し、送信すれば誰でも簡単に会員になれる。ゲームサイトのゲームは基本的に無料。つまり24時間ゲームセンターにいるようなもの。これだけでも子供には悪影響を及ぼしているが、ゲームサイトの中には、あととあらゆるコンテンツが搭載されている。ある意味、ゲームはほんの一部と言ってもいいぐらいだ。例えば小説が読める。文学的なもの、純愛ものもあるが、読者層ランキングで青少年の年代を覗(のぞ)いてみると、ポルノまがいの小説が上位にある。性に興味を持つ年代ではあるが、いつでもどこでもポルノ小説を読める環境であること自体、明らかに異常。

ゲームサイトには「サークル」というコンテンツがあり、これが現在の懸念材料。地域や学校、趣味などのキーワードで会員に呼び掛け、共通の話題による仲間(サークル)を作ることができる。サークルは、年齢制限や人数

制限を設けることができ、主宰者が加入の可否を判断する。子供たちが作っているサークルの多くは、同世代で構成している。つまり、同世代の仲間だけが集まる「秘密基地」として遊んでいると信じている。

思い起こせば我々が子供のころも、秘密基地は作っていた。大人の目が及ばないどちらかと言えば危険なゾーンに作っていた。だが危険な場所ほど善意ある大人たちにとって、秘密基地は見つかり、それで事無きを得ていたのかもしれない。

同世代で作ったサークルが安全か危険か。まず、サークルには加入者だけが書き込める掲示板がある。通常は他愛のない書き込みをしているが、何かの拍子に特定の人物をやり玉に擧げる「いじめ」につながるケースも多い。○○中学や○○高校のサークル掲示板であれば、学校裏サイトとなっている可能性も十分ある。

素直に人を信じる子供たちは、同世代の仲間にはいろいろな話を打ち明ける。実は、こういったサイトの登録時に必要な名前や年齢、住所などが本当にどうか確認されることはない。つまり、年齢詐称は簡単で悪意を持った大人が子供たちのサークルに様々な思惑を持って入り込んでくる可能性もある。さらに、掲示板以外にサークル内では簡単に個人宛メールを送ることができます。つまり、出会い系サイトと同じ仕組みを持っているということ。実際に、出会い系サイトに規制がかかった最近では、こういったゲームサイトやコミュニ

ティーサイトによる犯罪被害が増えている傾向にあり「影」は消えない。

「人間フィルタリング」の推進

フィルタリングを装着していても抜け道は存在する。新しいサイトやコンテンツは次々と世に出ている。前述した実態はほんの一部と言ってもよい。では、親や大人たちは何をどうすれば良いのか。成すべきことはできる限りの「人間フィルタリング」だ。

いつの時代も親や大人は、子供たちに見せたくないもの、触らせたくないもの、近づかせたくないものをガードしてきた。それが、ケータイという個人の所有物の出現でガードをくぐってダイレクトに子供たちに届くようになった。ここに人間フィルタリングを機能させるには、まず、親や大人が子供の使うケータイ機能を知っておくことが大前提だろう。さらに、子供に対し様々な情報が安全か危険かの判断力を養わせたか、欲望に振り回されない自制心を養わせたか、自分の行いに対する責任能力を養わせたか。これまでの子育てを素直に思い返してほしい。

当然、完璧(かんぺき)に養ったと言える親は存在しないだろうし、完璧と言ふ親ほど危なっかしい。「ケータイは持たせられない」と納得させるのも一つだろう。ただ、判断力、自制心、責任能力は大人でも揺らぐもので、子供に完璧は求められない。ケータイは正しい使い方さえすれば非常に便利な道具である。ならば、ケータイを利用して「判断力」「自制心」「責任能力」を養う環境を創っていく手段もある。

その第一歩は携帯電話を買うとき。ケータイは多くの危険性が潜む凶器であることと、個人の所有物として責任を持たなければならないことをじっくりと話し合うことが大事。持たせるのであればフィルタリングの装着は必須で、さらに「親子の約束事」「家庭内のルール作り」を話し合って決める。作った約束やルールは親自身も守り、

子供に示す。変なメールが届いたら、詐欺まがいの行為に引っ掛かったときに、きちんと親に相談できる関係をつくること。冷静にトラブル解決の道を示すこと。このような経験が徐々に「人間フィルタリング」を厚くさせていく。

アナログ人間の育成

広島市は平成20年7月に「青少年と電子メディアとの健全な関係に関する条例」を定めた。この条例を啓発するため、広島市電子メディア協議会は出前講座を行っている。条例の基本方針の一つに「青少年に電子メディアを適正に利用するために必要な知識・能力を習得させること」があり、これにはモラルや規範意識の育成が何より重要で、その基本は人との接し方だと啓発している。

ケータイは、誰とも会わなくても、誰とも話さなくてもコミュニケーションがとれ、つながりが持てる。こんな時代だからこそ、あえて、きちんと人に会う。目を見て話し相手の話を聞く。相手の立場を考慮しながら聴き、話す。当たり前のようであるが、こんな親子の接し方、人と人の接し方を、まず親・大人が実践すべきである。

モラルや規範意識は親・大人自身がしっかりと身に付け、子供に見せなければならない。今の子供は、やがて大人になって、子供を授かり、子育てをする。そのとき手本となるのは、今の我々の姿。今の子供が子育てをするときは、もっと便利な道具が出現し、それはさらに危険性が増しているかもしれない。どんなに時代が変わっても子供を守り育てる親の姿、モラルや規範意識を尊ぶ大人の姿は、未来永劫変えてはいけない。我々はそれを次世代にきちりと引き継ぐ責任がある。

最新機能付のデジタル機器に振り回されず、逆に利用して「アナログ」の大切さを子供に伝える大人が一人でも多くなれば、そこに「光」は見出せる。

(広島市電子メディア・インストラクター)



出前講座

黒柳徹子さんから届いた



子どもたち への メッセージ ～ふしぎなたまご～

特
別
寄
稿

手話劇「ふしぎなたまご」を上演しよう、と心をあつめたみなさまへ。みんなが、耳の聞こえる人も聞こえない人も一緒に楽しめる「ふしぎなたまご」を上演する、と聞きました。とっても、うれしく思います。

みんなが一緒にやること、これが何よりも大切なことだと思います。私の、「窓ぎわのトットちゃん」の校長先生は、いつも、「助けてあげなさい」とはおっしゃらず「みんな一緒だよ、一緒にやるんだよ」とだけおっしゃいました。ですから、私たちはみんな、いつも一緒にやってきました。みんなで一緒にやる。それが本当に素晴らしいことだと思います。私も東京で、「窓ぎわのトットちゃん」の印税で作ったトット基金というのでプロのろう者の劇団「日本ろう者劇団」を全面的に支援していて、みんなも凄く活動しています。テレビドラマ、映画などで手話が必要な時は、ほとんど、私のところ

の「日本ろう者劇団」のろう者の俳優たちが行って、お教えしています。たとえば、口がしゃべれても、心を閉ざしてコミュニケーションできない人たちもいます。私たちは色々な方法で、お互いがわかりあうことが必要だ、と思います。

みんなのやろうとしていらっしゃる「ふしぎなたまご」の成功を祈っています。そして、その中から、必ず素晴らしいものが生まれることを信じています。そして、これは一回でやめないで、続けることが大切だと思っています。ぜひ、続けてください。また、大人になっても、いま持っている一生懸命な気持ちを忘れないでいてください、私も、うれしいと思っています。本当は、地球上のみんなが、あなたたちみたいな気持ちでいれば戦争もないし、いじめもないのに、と思ったりもします。それでは、ご成功を心から祈っています。

注記：このメッセージは、宇品東小学校（広島市）の子どもたちによる手話劇の上演に際し、黒柳徹子さんから子どもたちに贈られたものですが、夢配達人プロジェクト推進事業に携わるすべての人に伝えたいメッセージです。

～子どもたちの夢を地域のみんなで実現させました!～



北広島町



大崎上島町



町のシンボルとなる夢の巨大万華鏡が完成しました。

安芸太田町



プラネタリウムが完成し、鑑賞会で地域の人に星座の説明をしました。

熊野町



広島市



東広島市



雲月山の植物の写真集を作るため植物観察を行いました。



黄金色に実った稲穂を鎌で刈り取りました。

三原市



小学校のプラスバンド部と広島交響楽団が夢の協演を行いました。

福山市

夢配達人プロジェクト推進事業

平成20年度に採択され、
平成21年度に実現した『夢』

詳しい取組状況は、県民会議のHPをご覧ください。<http://www.hiro-payd.or.jp/yume/20.html>

青少年育成安芸高田市民会議

AKITAKATA

1

第2回安芸高田市青少年育成フェスティバルの開催 ～子どもたちの率直な意見に触れる貴重な機会～

昨年11月14日(土)、第2回安芸高田市青少年育成フェスティバルを開催しました。このフェスティバルは、市町村合併後に「安芸高田市の青少年育成運動を盛り上げていこうやあ～」と役員から声が上がったことをきっかけに、市内の小中高の児童生徒の意見発表を行う構成で一昨年から開催しています。

今年は、小学生2名、中学生2名、高校生3名の意見発表がありました。どの意見発表も、家族・友人を想(おも)う気持ち、自らの夢や純粋な気持ちなどが素直に出され、発表中の会場は水を打ったような静けさに包まれていました。参加者の感想には、「素晴らしい」「学ぶところが多くある」「今後もこの会を大きく発展してもらいたい」などの声が多数寄せられ、いきいきと意見を述べる子どもたちの姿に、多くの人が感心していました。

緊張感に包まれた会場で無事発表が終わると、子どもたちは舞台袖で、無邪気さと充実感に満ちた笑顔を満面に浮かべており、堂々と意見発表を行っていた姿との



ギャップが、とても微(ほほ)笑ましく感じられました。大きな会場での発表は、子どもたちの良い経験になりますし、私たち大人にとっても子どもたちの率直な意見に触れる貴重な機会になります。今後も市民の皆さんとともに、このフェスティバルを継続させ、安芸高田市の青少年育成運動の象徴的な会にしていきたいと思います。

AKITAKATA

2

全市で取り組む「あいさつ運動」 ～「ひとづくりは まちづくり」～

11月の全国青少年健全育成強調月間と連動し、全市で「あいさつ運動」を展開しています。

この運動はPTA、交通安全指導員や児童民生委員などさまざまな組織で活動してきています。また地域でも、「地域の子どもは地域で育てよう!」というまちづくりの視点から、毎日欠かさず登下校時のあいさつ運動をされている方も多く、頭の下がる地道な活動が

続けられています。

市民会議では、市内に点在する活動と青少年育成運動を連携させて、広範囲に参加を呼びかけながら、一昨年から活動を徐々に広げてきています。

昨年も11月には市内各所で登下校時のあいさつ運動を実施しました。朝夕が日ごとに寒くなっていますが、子どもたちと元気いっぱいのあいさつを交わす中で、短い言葉ながらもあいさ



つの大切さを感じているところです。また、青少年が被害者となる凶悪犯罪が後を絶たない現状からも、安全確保もさることながら、「あいさつ」から感じられる何げない優しさや温かさが子どもの成長になくてはならないことだと、活動を通して多くの人が感じています。

今後も市民会議では、終わることの無い「あいさつ運動」を、「ひとづくりは まちづくり」の視点から継続していきたいと考えています。

県内各地の市民会議が行う、趣向を凝らしたイベントの数々。今回は、青少年育成安芸高田市民会議の活動を紹介します。

いきいき地域活動紹介

市町民会議は県民運動の推進組織



青少年育成尾道市民会議

ONOMICHI

「第45回尾道市青少年健全育成大会」開催! ～子どもたちや保護者ら多くの市民が参加～



平成21年11月28日(土)、しまなみ交流館(テアトロシェルネ)で第45回尾道市青少年健全育成大会を開催しました。

この大会は、青少年の健全な育成をはかるために、毎年開催しているものです。当日は、青少年健全育成にかかる市内各機関・各団体の関係者や、功労表彰や育成作文で表彰される皆さん、アトラクションや作文発表に出場する子どもたち、保護者など多くの市民が参加し、600人近い来場者がありました。

式典では、まず、青少年健全育成功労表彰の表彰式が行われました。青少年健全育成活動に貢献されている市民や団体が表彰され、受賞者から、「子どもたちが明るく健やかに成長することを願い活動をしてきました。受賞を励みに、よりいっそう精進します」との謝辞が述べされました。

続いて、尾道市青少年健全育成作文の表彰です。今年も市内全域の小・中学校、高等学校からたくさん応募がありました。

その中から最優秀賞、優秀賞、入選が選ばれ、表彰式が行われました。そして、最優秀賞に選ばれた小学校1年生から高校生までの10人が、一人ひとり、作文を舞台の上で発表しました。一生懸命、自分の声で思いを伝える元気な声が、会場に響きました。

大会の終わりを盛り上げたのは、アトラクション(体験活動発表)です。

まず、山波子ども神楽団の「牛若丸」が上演されました。団員一同息の合った演技は、一つ一つの動きが洗練されており、見る者を引き込みます。演者と観客との掛け合いで、会場に笑顔があふれる場面もあり、会場全体が一つになって郷土芸能を楽しみました。

最後を飾ったのは、吉和中学校の吉中太鼓の演奏です。3年生約80名が一致団結し、3年間の集大成として、力いっぱい心を込めて太鼓を打ちました。迫力ある音色が会場中に響きわたり、威勢のいい掛け声や軽快な拍子ばかりで、会場を沸かせました。

PROFILE

【いのきしようそう】

県立広島大学人間文化学部国際文化学科教授

専門分野:発達心理学、認知心理学

キーワード:青年、育児観、子ども観

*子どもの理解、子育て、かかわり



●お話
猪木 省三
さん

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される社会の形成を図るため各方面で次世代育成のための行動計画策定が進められています。では、次世代を育成する青少年は、どんな子ども観や育児観を持っているのでしょうか。県立広島大学人間文化学部国際文化学科教授の猪木省三さん聞きました。

青少年の子ども観と育児観

一次世代育成計画に関連して――

1はじめに

平成15年に制定された「次世代育成支援対策推進法」によって、我が国における急速な少子化の進行等にかんがみ、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成を図ることとされました。地方公共団体、企業等が、次世代育成のための行動計画を策定することが求められています。

行動計画に盛り込む内容としては、子育てを行つ労働者等の職業生活と家庭生活との両立を支援するための雇用環境の整備、働き方の見直しに資する多様な労働条件の整備などがあげられています。しかし、それだけで十分でしょうか。

2これまでの子育て支援策

これまでの日本における国による子育て支援の政策としては、1994年のエングゼルプラン、1999年の新エングゼルプラン、2004年の子ども・子育て応援プランがあります。しかし、これらの政策は主に制度や環境条件の整備に重点が置かれていました。例えば、保育サービス等の子育て支援制度、仕事と子育ての両立のための育児休業制度などです。そこには、子育てをする人の子育てに対する考え方あるいは不安などの心理的側面は考慮の外にありました。

また他方では、小・中・高等学校の学校教育においても、将来の親になるため、子育てをするための教育は中・高等学校の家庭科の一部

を除いて、ほとんど取り上げられていません。次世代を育成する立場になるであろう青少年の育児や親になることについての考え方を探り、教育の面からの子育て支援策を提言しようと考へ、青少年の子ども観と育児観について数回の調査を行つて研究しました。その成果の一部を以下に紹介いたします。

3男女青年の子ども観と育児観の研究・方法

(1) 子ども観

青少年が子どもについてどのようなイメージを抱いているかを、花沢(1992)をもとに作成した調査項目を使用して調べました。調査項目は表1をご覧ください。

(2) 育児観

青少年が子育てについてどのようなイメージを抱いているかを、荒川(1992)が

作成した調査項目を使用して調べました。調査項目は表2をご覧ください。

(3) 取り上げた関連する要因

青少年の子ども観と育児観に関連する可能性があるいくつかの要因を数回の調査において取り上げました。それらの要因は、①就業観(女子学生の場合)、結婚や出産と

仕事の継続についての考え方
②自分観(自分自身をどうとらえているか)
③性役割観(性別による役割をどう考えているか)
④母親の養育態度(自分の母親の養育態度)
⑤母親の子ども観(自分の母親の子ども観)
⑥父親の養育態度(自分の父親の養育態度)

⑦男性の育児参加(男性の育児参加に対する考え方)――でした。
(4) 対象者
調査は日本と台湾の男女大学生、短大生で、延べ千名以上を対象にしました。

〈表1〉子ども観の調査項目と各項目の大学生の平均値

【質問】

あなたにとって子ども(小学校に入学するまでの子ども)のイメージはどのようなものですか。それぞれの項目について最も当てはまると思うところに○印をつけて下さい。

【得点】

- 1 全くそう思わない
- 2 余りそう思わない
- 3 どちらともいえない
- 4 ややそう思う
- 5 とてもそう思う

番号	調査項目	平均値
1	かわいらしい	4.60
2	あぶなっかしい	4.22
3	あたたかい	3.60
4	うつとうしい	2.80
5	あどけない	4.24
6	じれったい	2.69
7	ほほえましい	4.56
8	むずかしい	3.45
9	いとおしい	4.01
10	めんどくさい	2.98
11	あかるい	4.16
12	こわい	1.91
13	うつくしい	2.40
14	じゃまな	2.37
15	たのしい	3.98

番号	調査項目	平均値
16	うるさい	3.72
17	あいくるしい	4.10
18	わざわらしい	2.55
19	すばらしい	3.13
20	しつこい	2.90
21	おもしろい	3.91
22	ださい	1.61
23	いじらしい	2.63
24	くさい	1.64
25	すがすがしい	2.87
26	いらだたしい	2.41
27	うれしい	3.26
28	かったるい	2.25
29	きれいな	2.73
30	やかましい	3.56

【引用文献】

- 荒川普子(1992)／「女子青年の育児への積極性」広島女子大学家政学部児童学科卒業論文(未公刊)
- 花沢成一(1992)／「母性心理学」医学書院
- 柏木恵子(2001)／「子どもという価値—少子化時代の女性の心理」中央公論新社
(少子化を親の心の問題としてとらえる立場から論じてあります)
- 柏木恵子(2001)／「子育て支援を考える—変わる家族の時代に」岩波書店
(子育ての前提としての家族関係、親子関係の在り方を考える内容です)

〈表2〉 育児観の調査項目と各項目の大学生の平均値

【質問】

あなたは育児についてどのように思いますか。それぞれの項目について最も当たると思うところに○印をつけて下さい。

【得点】

- 全くそう思わない
- 余りそう思わない
- どちらともいえない
- ややそう思う
- とてもそう思う



番号	調査項目	平均値	番号	調査項目	平均値
1	育児は楽しさなものである	3.62	16	育児は不安ななものである	4.28
2	育児は自分を犠牲にするものである	3.41	17	育児は幸せを感じさせるものである	4.65
3	育児は温かいものを感じさせるものである	4.47	18	育児は苦労の多いものである	4.46
4	育児は面倒くさいものである	3.18	19	育児は元気を与えてくれるものである	4.37
5	育児は自分を成長させるものである	4.47	20	育児は疲れるものである	4.17
6	育児は怖いものである	3.28	21	育児は夢があるものである	4.09
7	育児はやりがいがあるものである	4.35	22	育児は忙しいものである	4.33
8	育児は物の見方、考え方を狭くさせるものである	1.86	23	育児はしていると優しくなるものである	3.82
9	育児は喜びを伴うものである	4.50	24	育児は忍耐を必要とするものである	4.51
10	育児はストレスがたまるものである	4.00	25	育児は面白いものである	4.03
11	育児はやってみたいことである	4.13	26	育児は休みなくするものである	3.73
12	育児はつらいものである	3.80	27	育児は今まで見えなかったものを見せてくれるものである	4.42
13	育児は感動があるものである	4.55	28	育児は責任が重すぎるものである	3.51
14	育児は煩わしいものである	2.94	29	育児は充実したときが過ぎせるものである	4.09
15	育児は嬉しいものである	4.23	30	育児は時々投げ出したくなるものである	3.69

とに研究を進めてきました。むろん、中学生、高校生を対象にしたり、妊娠中、子育て中の親を対象にしたりすることで、より広い範囲に適用できる結論が得られるものと思われます。

表1の各項目の横に記した数値は、日本人の大学生を対象に調査した際の子ども観の調査項目における得点の平均値です。いずれも5点満点で、下線を付した平均値は高いあるいは低い方に偏っていることを示しています。表2の各項目の横の数値は、日本人の大学生を対象に調査した際の育児観のもので、数値の意味は表1と同様です。表1、表2の平均値から、日本人の大学生は全体として肯定的な子ども観を持つていること、一方で、肯定的な面と否定的な面の両面を含んだ育児観を持つていることがわかります。

(2) 子ども観と育児観の構造

子ども観の調査項目と育児観の調査項目がどのようにグループ化できるかを、因子分析という統計的手法を使って検討しました。その結果、子ども観は接近的、回避的の2つの項目グループ(因子といいます)、育児観は肯定的、否定的の2つの項目グループにま

た。接近的な子ども観は肯定的な育児観と、回避的な子ども観は否定的な育児観と関連していました。

(1) 子ども観と育児観の平均値

調査で得られた主な結果は以下の通りです。

4 男女青年の子ども観と育児観の研究・結果

とめる」ことができました。

(3) 子ども観と育児観との関係

子ども観と育児観は、日本と台湾のいずれでも強い関連性があることがわかりました。接近的な子ども観は肯定的な育児観と、回避的な子ども観は否定的な育児観と関連していました。

(4) 子ども観と育児観に対する関連する要因の関係

子ども観と育児観に関する可能性がある7つの要因を取り上げましたが、いずれの要因も子ども観と育児観のどちらとも強い関連性はありませんでした。

5 研究結果からの提言

(1) 学校教育

次世代を育成する立場になるであろう青少年の育児や親になることについての考え方を探った調査の結果から、教育の面からの子育て支援策を提言してみます。

小・中・高等学校の学校教育において、将来の親になるため、子育てをするための教育を行うべきであり、特に、次世代を育成する立場になるであろう青少年に対して、子どもに対する肯定的なイメージや認識を学ば

(2) 家庭教育

これまで検討したのとは別の要因を取り上げて、子ども観と育児観に関連する要因

様々な内容を含むものに代えて検討することで、青少年の子ども観と育児観の別の面が見出される可能性があります。

(3) 他の対象者への調査

これまで大学生を対象とした調査をも

いること、また子ども観と育児観は強く関連しているが、その他に関連する要因が見出せないこと、が明らかになりました。今後、

課題として挙げた点を中心にもう少し研究を

進めていきたないと考えております。

6 今後の課題

(1) 子ども観と育児観の構造

今まで検討したのとは別の要因を取り上げて、子ども観と育児観に関連する要因

様々な内容を含むものに代えて検討することで、青少年の子ども観と育児観の別の面が見出される可能性があります。

(2) 他の対象者への調査

これまで大学生を対象とした調査をも

せることが、親になることへの肯定的な考えに結びついて有効と思われます。

子どもを尊重し、安定した温かい親子関係をつくり出すことが、そのような家庭環境で生活する中で、次世代を育成する青少年にも子どもや育児に対する肯定的なイメージや考え方を培うという点で有効と思われます。

(2) 家庭教育

子どもを尊重し、安定した温かい親子関係をつくり出すことが、そのような家庭環境で生活する中で、次世代を育成する青少年にも子どもや育児に対する肯定的なイメージや考え方を培うという点で有効と思われます。

*子どもの理解、子育て、かかわり

イ 時代に翻弄される
若者の姿の反映

すこし強すぎる見出しかもしれないが、筆者の気持ちをそのまま表した。

若者言葉を単に「トコロのレベル」だけで考えるのは不十分である。それでは、珍しい言葉があるところことで終わってしまうかない。個々の言葉を見るだけでなく、その時の若者言葉の全体的な特徴を把握し、そのような特徴が生じる若者の心理を考え、さらにそのような心理を生み出す時代の特徴を足していくえる必要がある。

（）では、「小泉構造改革」以降、昭和型ラジオの影響で、若者たちが「レトロ」という言葉を用いて、自分たちの文化や価値観を表現する傾向が現れる。一方で、若者たちは、この時代に生まれた新しい言葉や表現をも取り入れ、自分たちの文化や価値観を表現する。このように、若者たちは、常に新しい言葉や表現をも取り入れ、自分たちの文化や価値観を表現する。このように、若者たちは、常に新しい言葉や表現をも取り入れ、自分たちの文化や価値観を表現する。

ルの文章に、各地の方々を使って書いていることが取り上げられた。

また、関西弁の好感度が全国的に高まり、その使用が目立つところも報告された。なぜ関西弁を使いたいのかの理由としては、「ノリがいい」「話が盛り上がる」「楽しげ」「笑いがとれる」といったものが並ぶ。つまり、若者たちの「楽しさ志向」「親しさ志向」「緩やか志向」といった特徴がきわめて顕著で、いかに相手と一緒に楽しみ、楽しませることができるかといった志向性がうかがえるのである。

このような志向性の背景に、日本の高度経済成長に伴い、「自由」とか「今を楽しむ生きる」という風潮が顕著になつたことが挙げられる。

ところが、特に「小泉構造改革」以降、若者たちの将来への不安が顕著になつた。終身雇用、退職金、年金で一生が保証された社会のシステムが大きく変わり、将来への不安は強まつた。昇進・昇給が年齢と併行するといったことも当然とは言えなくなり、少子化で老後の年金も期待できないことなどを知つてころね。

「」のような状況では、今を楽しめないと、

自分に「自信が持てない」といふことが立
ち、相手と積極的に「コミュニケーションがと
れず、受け身の姿勢が目立つことにもなる。
平成20年度の文化庁が行った「国語に関
する世論調査」では、人に対しても言葉で考え
を伝えるより、互いに察し合つて心を通わせ
る方を重視する傾向が強まつてゐることが
明らかになつた。携帯メールが多くなつたり、「K-Y（空氣が読めない）」がはやつて、察す
ことが求められたことともあろうが、
言葉で楽しむ、つながりを確認するところに
と自体が少なくなつてゐるのではないか。
社会のグローバル化が進み、世界の動きは
日本の若者に直結する。リーマンショックは
日本の若者を直撃した。若者を困む状況は
ますます厳しさを増してくる。そのような
中で、自分の生き方を摸索してゐる若者た
ちの、社会の中で翻弄され苦しむ姿は、言葉
からも如実につかがえる。「若者言葉」は、
そんな若者の命の声なのである。

人のコミュニケーション／言葉で表して伝えるか、察し合って心を通わせるか

「言葉にして伝え合う」が12ポイント減、「察し合って心を通わせる」は10ポイント増

どちらかと言えば (1)の方を 重視している	どちらかと言えば (2)の方を 重視している	相手や付き合いの 種類によって 異なるので、 一概には言えない	(1)と(2)の どちらも 重視していない	分からない
38.3%	33.6%	26.0%	0.9%	1.1%
[50.7%]	[23.3%]	[22.6%]	[1.6%]	[1.7%]

〔 〕内は平成11年度調査

人と付き合うときに、

(1) 互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝え合うこと、
(2) 考えていることを全部は言わなくても、互いに察し合って心を通わせるこのどちらを重視しているかを尋ねた（選択肢の中から一つ回答）。

結果は以下のとおり



「言葉にして伝え合う」を選んだ人が38.3%と最も多いが、平成11年度と比較すると12ポイント減少している。

一方、「互いに寄り合って心を通わせる」を選んだ人が10ポイント増加し、33.6%だった。

「国語に関する世論調査」について

文化庁が国語施策の参考とするために平成7年度から毎年実施

平成20年度は、日本語を大切にしているか、人とのコミュニケーションについて、読書について、情報機器と言葉についてなど、国語に関する一般の人々の意識を調査するとともに、カタカナ語の認知度・理解度・使用度や慣用句等の言い方・意味について調査した。

調査対象は全国16歳以上の男女。調査時期は平成21年3月。個別面接調査で、調査対象総数3480人のうち有効回収数(率)は1954人(56.1%)だった。

青少年の身体運動文化を考える

—若者はなぜ『体罰』を容認するのか—



●お話
中瀬古哲さん

1はじめに

「青少年の健全育成において、身体運動文化（体育・スポーツ活動）は必要不可欠の領域である！」との説には、ほとんどの方が賛同してくださる」と思っています。しかしながら、その一方で、非科学的指導による「使いすぎ症候群」や勝利至上主義的指導による「燃え尽き症候群」等、その弊害・副作用も指摘されています。単純に体育・スポーツ活動をすればよいのではなく、その「出会い方」指導のあり方“が、問題となるようです。

本稿では、「体罰」という切り口から、現代社会における青少年の“心とからだ”的現状並びに、身体運動文化を通して青少年の健全育成を考える際に、押さえておかねば

ならない諸課題について考えてみたいと思います。

全育成を実現することは不可能である面の反論がありました。

2「体罰」をめぐって —暴力容認の体质と健全育成

昨年、県立広島大学で行った本会主催の講座で「体罰」を扱ったところ、意見が真つま分かれたことを今も鮮明に覚えています。ある年配の男性が、ふがいない試合を選手たちを運動場で一人ずつ平手打ちしていった女性指導者の事例を紹介し、その光景が非常に美しい“ものであつたと評価し、「体罰」を賛美する意見を述べられました。それに対して、絶対に「体罰」は容認すべきではない、「体罰」を手段として青少年の健

全育成を実現することは不可能である面の反論がありました。

一般的に、日常の生活場面においては犯罪として認定されるであろう暴力的行為（体罰）も、体育・スポーツの場面においては容認される風潮が根強く残っています。それどころか、体罰（＝愛の鞭（むち））こそが体育・スポーツの重要な教育的価値・機能であり、戦前のような体罰容認の指導復活こそが青少年の健全育成に求められているとの主張も少なくありません。

青少年健全育成の場面では体育・スポーツ活動がとても重要になりますが、半面、非科学的な指導や勝利至上主義的な指導、体罰などによる弊害が問題視されることもあります。県立広島大学人間文化学部健康科学科教授の中瀬古哲さんに聞きました。

【なかせこ てつ】
県立広島大学人間文化学部健康科学科教授
専門分野：スポーツ教育学、体育科教育学、体育・健康教育
キーワード：社会的発達、カリキュラム、教授・学習プログラム、運動遊び、ボールゲーム、学習集団

い」のように相反する意見が存在することを考えると、体育・スポーツ活動を通して青少年の健全育成を目標（ひよのぼり）する場合、「健全」の中身・内実をどう描くのか、体育・スポーツ活動を通して、どのような能力や価値観を培うのか、が丁寧に問われなければならないと思うのです。

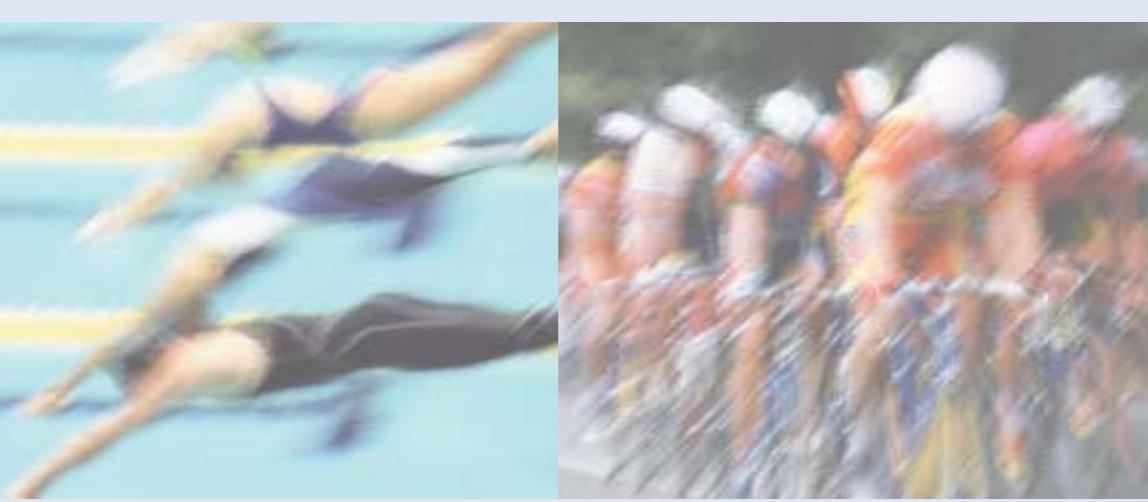
3 体育・スポーツ活動と 「健全」の内実 —その相反する二つの顔

戦前は、体育・スポーツ活動を通して培う「健全」の中身は、「左傾思想に感染せぬ精神」「滅私奉公の精神」と明言され、いわゆる“臣民”としての基礎的資質を培う重要な教材の一つでした。戦後は、軍事教育に奉仕したとして「武道」は禁止され（その後順次解禁）、「チームワーク」「公正」等、民主主義の基礎を教える教材として特にチームスポーツが奨励されました（注）。

しかしながら、多くの体育実践が、スポーツをすれば民主主義が身に付くといったのは幻想であることを教えてくれました。教える側（指導者）と学ぶ側（青少年）の間に民

主的な関係ができるていい限り、いくつも民主主義の思想を内包した活動である体育・スポーツ活動を行つても、その教育機能は發揮できなかつたのです。

体罰を容認する体质は、立場の有利な指導者が、指導者の意図を伝えるための「ミユニケーションの手段として暴力の行使を容認する」ということであり、「暴力から話し合ひへ」をその本質とする民主主義とは相容（あうじ）れないものであるためと考えられるでしよう。



4

学生の声から
—その背後に潜む
青少年の願い＝心の叫び

ず暴力を容認する体質を助長するところの副作用を伴います。家族のような親密な関係の中で、愛するもの（指導者）から受けたる暴力という点で、「ドスマステイック・バイオレンス」に近づくと考えられるでしょう。

身体運動を媒介とした教育活動において

「この数年、大学1年生（約200名）に、体罰（愛の鞭）の是非を聞き、その理由を交流・議論しています。骨折や怪我（けが）を負わすようなもの、指導者のストレス発散としか思えないような暴力は言語道断としつつも、毎年30～40%の学生が、指導者の愛情のこもった平手打ち（軽いビンタ）程度の体罰（＝愛の鞭）は、是認されてよい／必要である」と主張します。

運動部等で心地よい体罰（愛の鞭）を経験してきた学生は、ほとんど間違ひなく体罰を否定することはありません。そして、「愛情の有る無しの基準が曖昧（あいまい）で、暴力容認の体質が虐待に繋（つな）がる」「コミュニケーションの手段に暴力を使った時点で指導者としては失格ではないのか」等の否定派の声に一定理解を示しつつも、美しい青春の思い出とともに形成された「スポーツ観」は容易に揺り伏すことにはありません。

積極的に「体罰」の必要性を主張する学生の主要な根拠の一つに、「口で言つても分からぬ者が存在する」という指摘があり

は、体罰（＝愛の鞭）を使わずに、青少年に真剣に対峙する方法論を確立することが求められているのではないかでしょうか。どんなに悪態をつこうが、どんなに「下手」であろうが、決して見捨てない指導者が求められているのです！

この一連のやりとりから浮かび上がってくるのは、宙ぶらりんな「心」と、からだに悩み揺れる青少年の姿（半人前の自覚）と、それをしっかりと受けとめ切り捨てずに対峙（たゞじ）してくれる大人を求めていると

（注）これは、時の文部大臣の発言や文部省（現文部科学省）等の公的機関の記述から読み取れる見解であり、体育・スポーツを楽しむ多くの国民がそのような意識を持っていたかどうかは別問題です。

ます。反社会的・非社会的な行動でしか自己表現ができないところは、思春期にはよく見られる特徴であると言われています。学生たちは自分自身のこととして、それがよく分かつているようです。そして、そのような思春期特有の未熟な行動に対しても、「理屈ではなく体罰（愛の鞭）の方が効き目がある」「規律維持のために必要不可欠だ」と言います。

分からぬでもないですが、広島少年院暴行事件の裁判で裁判長は「規律維持がいかに困難であっても、暴力を用いた指導は許されない」と断言しました。暴力のレベルが違いすぎるのでしょうか、体罰を考える際の重要な指摘だと思います。

このような指摘に対し、「体罰をした先生が一番自分たちのことを真剣に考えてくれていた。他の先生は煙たがつて無視をする。禁止されている体罰を行使してでも自分が指導してくれた先生に本当の愛情を感じる」という声が届きました。考えさせられました。

この一連のやりとりから浮かび上がってくるのは、宙ぶらりんな「心」と、からだに悩み揺れる青少年の姿（半人前の自覚）と、それをしっかりと受けとめ切り捨てずに対峙（たゞじ）してくれる大人を求めていると

「体罰」は、どんなに効き目があつても、必ず暴力を容認する体質を助長するところの副作用を伴います。家族のような親密な関係の中で、愛するもの（指導者）から受けたる暴力という点で、「ドスマステイック・バイオレンス」に近づくと考えられるでしょう。

いひい」と、だと思うのです。彼らが本当に求めているのは、「叩（たた）かれることがない、眞剣に向き合ってくれる大人」なのではないでしょうか。

5 おわりに

体罰（＝愛の鞭）は認派の学生の声から、その背景にある彼らの「想い」「願い」を読み解いてみました。実際の、思春期真っただ中の青少年を指導する場面においては、計らはずも体罰を行使することが避けられないかもしれません。しかしながら、それは特例としての悲しい事例であり、それを常套（じようとう）手段として容認することは、やはり問題があると言わざるを得ないのではないかでしょうか。ましてや、体育・スポーツ活動だからといって理由で、それを正当化する論理は存在しません。

おおよそ教育活動は、文化的諸活動を媒介とした大人を含めた人間のコミュニケーション活動によって実現されます。身体運動文化（体育・スポーツ活動）を媒介としたコミュニケーション過程こそが、体育指導における「体罰」は、どんなに効き目があつても、必

沖田孝司さんのエッセイ

10代のための 音楽講座



【おきた たかし】
ヴィオラ奏者。1958年、広島県生まれ。東京音楽大学ヴィオラ科卒業後、ドイツ国立デトモルト音楽大学ヴィオラ科卒業。ドルトムント市立フィルハーモニーーケストラに在籍。95年にマイ・ハート弦楽四重奏団を結成し、「マイ・ハート・コンサート」を開始。96年、大阪フィルハーモニー交響楽団トップ奏者を務め、マイ・ハート弦楽四重奏団メンバーを中心にもマイ・ハート室内オーケストラを編成し「マイ・ハート・コンサート Special」を開始。02年、市民に夢と希望を与え、市民活動を盛り上げた個人や団体をたたえる広島市の第1回「市民賞」を受賞。



マイ・ハート弦楽四重奏団

いつも心にほほえみを!
どこでもハートに音楽を!

幼い頃の、私は音楽に興味がありました。実家には当時買っていたおもちゃが数年前まで健在でした。しゃかひなかつたわけではありませんでした。このかわいいおもちゃの世界に魅せられました。

10代のころと比べば、野球づけの毎日。ダークホースとして目されつつも、甲子園への夢破れた高校3年の夏休み、進路に関する三者懇談があり、「元来の好きが高じて、『音楽』の道へ進みたい」と破天荒な希望を突如として表明することに相なるのですが、私とすればまんざら突拍子のなことでもなかつたのです。

バッターボックスに立つと、吹奏楽部の演奏による私の作った応援歌「母」が流れ、また同年、当時における日本屈指のポピュラー音楽登竜門と呼ばれたヤマハのピアノハーンングコンテスト全国大会に、私の別の作品が出場したことも後押したのでした。

そんなこんなで好きだった「音楽」を自分の将来に重ね合わせ、すつたもんだの末、1年後、音楽大学入学が叶(かな)わねば家業を継ぐとの条件付きながら、両親から「音楽」を1年間勉強できる許しと支援を得たのは11月。周囲の「あきいぬたほうが賢明」との声をよそに、偶然にも出来た「マイオーラ」を片手に、「どう間違がったのか、神様のじたあいなのか、現役で音楽大学に合格・入学。曲(くせ)者で、なかなか言ひことを聞いてくれないヴィオラだけに、「もひとつ勉強して」と思ひで現在に至つてます。

音楽が響ひこの中に

から成り立つ「音楽」は、一般的にクラシック音楽、ポピュラー音楽、民族音楽の3つに分類され、文字にABCがあるように、音楽にはデレミ（イタリア語）があります。その原理、形式、歴史を司（つかさ）どり、受け継がれてきたものがクラシック音楽であり、「古いもの」と云ふ意。これまでに数限りない作品がこの世に誕生したはずですが、今に伝わるもののはそれから選ばれし魅力溢（あふ）れる作品ばかり。私たち人類が後世に伝えねばならない、残したものにして自然と文化の両面からなる世界遺産がありますが、「音楽」もまさしく世界遺産そのものであり、愛すべき、愛されるべきものなのは歴史が証明しています。

マヌスティアからは絶え間なく音楽が流れ続け、今日も広島カーブの歌がマツダ・スタジアムにこだまします。「今日のピッチャーのリズムは最高ですね」と云う解説者のコメントや、「チームワークの勝利、絶妙のハーモニーだった」と絶賛する監督インターも耳にします。競技前や最中、音楽を聞き、コラックスしたり、は

A stylized illustration of a violin with three musical notes floating above it.

「田間は一見に如(し)かず」と云う諺(いわせ)をござり存じ得る所か。私なりに解釈すれば「田間の経験より一度の体験を」という勧めの一文です。経験は人の話を聞いても、本で読んでも、テレビを見ても得ることがであります。しかし、体験は自



ドイツ時代の沖田さん



地域に出掛けて行ってのコンサートの様子

A cartoon-style illustration of a brown violin with four strings and a black bow above it.

が存在します。その中の芸術や文化と呼
れるものをかじってみませんか。コンサ
ート、美術館、映画館や各種イベントに出て
かけてみませんか。そして、味わってみま
んか。ひとつひとつは素敵（すきや）な
世界が広がっていますから。

私たちの周りにはあつとおりゆるものが存在します。その中の芸術や文化と呼ばれるのをかじってみませんか。コンサート、美術館、映画館や各種イベントに出かけてみませんか。そして、味わってみませんか。あつとやうには素敵（すてき）な世界が広がっていますね。

「このも心にほほえみを…」
「ひいじでハートに音楽を…」

10代のあなたに



じこでもハートに音楽を!』

止しまわ。その中の芸術や文化と呼
ものをかいつてねがせんか。コソカ
美術館、映画館や各種イベントに注目
みませんか。そして、味わってみま
せ。他のジャンルには素敵(あしや)な
広がりでござる世界ぢや。

ない、残したるものに、田然と文化の両面からなる世界遺産がありますが、「音楽」もまれしへ世界遺産そのものであり、愛すべき、愛されるべきものなのは歴史が証明しています。

マスメディアからは絶え間なく音楽が流れ続け、今日も広島カーペの歌がマツダスタジアムにこだまつます。「今日のピッチナーのリズムは最高じゃね」と云う解説者の「メントや、「チームワークの勝利、絶妙のハーモニー」と絶賛する監督インタビューも耳にします。競技前や最中、音楽を聞き、コラックスしたり、は

「白聞は一見に如(し)かず」と云う諺(いわぎ)をどう存じておられるか。私なりに解釈すれば「百回の経験より一度の体験を」という勧めの一文です。経験は人の話を聞いても、本で読んでも、「テレビを見ても得ぬことができますが、体験は自

私たちの周りにはじろんなものが氾濫(はそりん)してしまる。知るや知らぬにかかわらず、音や音楽も然別(しかり)。そしてそれは、手を伸ばせばすぐわかるにあり、私たちを優しく包んでしまお。

“ちょいサポ”とは…
“ちょいサポ”は、ちょっとしたサポートのことです。大学生のお兄さん、お姉さんの視点で子どもたちの健全育成のサポートをしてもらおうというのが、“ちょいサポ”的なねらいです。



県立広島大学
広島キャンパス
からの報告



子どもたちから学ぶ経験を深めていきたい

—航海体験セミナーから— 報告者：土江 篤史さん（経営情報学部経営学科3年）

私たち12名は昨夏、2日間の航海体験セミナー（国交省次世代人材育成協議会事業）にボランティアとして参加し、学童期の子どもたちとふれあいました。ボランティア活動とは… 今の子どもたちはどんなことを考えているのだろう… それを知りたくて参加を決めました。セミナーの目的は、経験を通して船に関係する仕事を知つてもらおうとしたのです。参加者の中には親元を離れるのが初めてとなる子どももいて、集団生活を送るうえでのマナーを学ぶということもあったようだ。

小中学生78名と私たちスタッフを乗せて航海練習船「広島丸」は宇品港を出港。2時間後には江田島に到着しました。その間子どもたちは、船内の見学と船舶職員の必須技能であるロープの結び方講座に参加しました。私たちは、この講座のサポート役です。子どもたちの覚えるスピードはとても速く、船員の方も驚くほどでした。子どもは覚えるのが早いといわれますが、その吸収力を目の当たりにしたわけです。また、船内に興味津々で、積極的に質問していく子もいました。

帰路では、昨日学んだことを復習しましたが、ほとんどの子どもが覚えており、上達していました。うまくできなくて周りの子が教えたり、また、ボランティアの人尋ねたりして何とかやり遂げようがんばっていました。

わずか2日間のセミナーでしたが、子どもたちは船上にかかる仕事の大切さや楽しさを知ることができ、また、新しい友達もできたようです。船に関する子どもたちの未知の世界もまたひとつ開かれたのではないかじょうつか。

私もこのセミナーを通して子どもたちから学ぶことの多さを実感しました。機会があればまた参加し、子どもたちから何かを学ぶ経験を深めていきたいと願っています。



航海体験セミナー

国土交通省次世代人材育成協議会事業として平成21年8月20日（木）～21日（金）に中国地方海運組合連合会青年部が開催。小学校4年生～中学3年生までの78名が参加し、広島商船高等専門学校の練習船「広島丸」に乗って広島港から江田島へ。船内見学や航海講座、レクリエーションなどを通じて、子どもたちは瀬戸内海の自然や船、海運について楽しみながら学んだ。



報告者
木下 満里奈さん
保健福祉学部
看護学科2年



報告者
荒木 雄二さん
保健福祉学部
看護学科3年

県立広島大学
三原キャンパス
からの報告

尾道市医師会の市民公開講座で人のいのちの大切さを訴える—ピアカウンセリングサークルの活動から—

昨年10月18日、しまなみ交流館で尾道市医師会性感染症・エイズ対策プロジェクト委員会、尾道市などが共催する、市民公開講座「大切なのちについて考える大切な人のいのちをあなたは守れますか？」に参加しました。

で、自分の無力さを感じました。本番では多くの方が来場されていて、とても緊張しましたが、無事発表を終えることができ、参加して良かったという達成感で満ちていました。

これからも、ピアカウンセリングサークルの一員として様々な活動に参加し、先輩たちのように頼つにられるほどの知識を身につけていきたいです。

私にとってこのような大きな場での活動は初めてでした。そのため準備の段階から何にもかも先輩たちに頼つっぱなし



報告者
松岡 明子さん
広島県東部
保健所保健師



報告者
各務 ひとみさん
保健福祉学部
看護学科4年



報告者
藤原 沙也香さん
保健福祉学部
看護学科4年

「講演会で講演の前座をピアの学生と務めてくれないか？」とのお話をうけてから練習を続けると共に、直前のリハ

一回まで思案を重ねました。終了後、ピアカウンセリングサークルの皆さんから「楽しかった！」という感想をもらつたことや、聴いてくださった方たちから「よかったです！」という感想がもらえたことがあります。

この講演会で、本当に貴重な経験をすることができたと感じました。これまでの健康教室では対象者の反応を見ながら

私は4年間、ピアカウンセリングサークルに所属し活動してきました。今まで、健康教室を行つてきましたが、舞台での

この講演会で、本当に貴重な経験をすることができたと感じました。これまでの健康教室では対象者の反応を見ながら

講演は初めてで緊張しました。

参加の方々に伝えたじ、知つてもうつはじかず、難じと感じました。

対象者の人数や特性、雰囲気などによって同じ内容でも適したやり方があるといふことがわかり、場面によつて臨機応変なやり方ができるようになります。がんばつていただきたいと思ひます。

はぐくむ Information

毎月17日
青少年の日
毎月第3日曜日
家庭の日
11月1日
ひろしま教育の日

会員加入のお願い

次世代を担う青少年が健やかに成長し、住みよい郷土を築いていくことは、県民すべての願いであります。責任です。

青少年育成広島県民会議では、県民の総意を結集し、青少年育成運動を幅広く展開しています。

そのため、県民のみなさまに県民活動の会員に加入していただくことで、直接・間接のご支援・ご協力をお願いするものです。

■ 賛助会員

会費／個人 年額1口 1,000円
団体 年額1口 10,000円

■ 正会員

会費／個人 年額1口 3,000円
団体 年額1口 5,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」、情報誌「はぐくむ」をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店
口座番号／(普通) 233251
口座名義／(社)青少年育成広島県民会議



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、「元気に明るく育つ青少年」をイメージしてデザインしました。

社団法人 青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、夢配達人プロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。公益社団法人への移行を目指して、準備を進めています。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日
法人格取得 平成2年10月21日
事業規模 30,266千円(平成21年度予算額)
育成基金 5億円(平成3年度設立)
会長 上田宗閑(茶道上田宗箇流家元)

はしがき

3号の校正を始めるに一年の早さを感じます。
今回も、皆さんのお力添えで遂行すること

ができました。感謝申し上げます。
近年、世の中の動きはめまぐるしく、やよもすると本当に大切にしなければならないことを見失いかがちになってしまいます。

「いけないことは、いけない」—。長年の経験を持っている大人の私たちが、しっかりと子どもたちに伝えていきたいと思います。

それぞれの地域で連携し、声かけをしてまいりましょう。

(社)青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52
広島県県民活動課内
TEL 082-513-2742
FAX 082-511-2173
<http://www.hiro-payd.or.jp>